

ヒマシ油をカプセルに充填した大腸カプセル内視鏡検査

医療法人 新生会 高田中央病院 消化器疾患内視鏡センター

○犬丸吉人・藤岡利生・勝田真琴

大分大学医学部附属病院 消化器内科

水上一弘

【背景】当院では2014年に大腸カプセル内視鏡（以下CCE）を導入し、様々な工夫で安楽な検査を目指している。今回、検査完了時間短縮を目的とし、ブースターとして使用しているクエン酸マグネシウムに加え、ヒマシ油を使用し良好な成績を得たので報告する。油特有の飲み難さや気分不良を考慮し、空カプセルに充填（以下ヒマシ油C）した。

【対象・方法】対象は2014年12月から2017年7月にCCE検査を実施した44例。男性13名：女性31名で平均年齢67歳。方法は日本薬局方規定No.000のゼラチンカプセルを使用し1カプセルあたり1.5ml弱のヒマシ油を充填したものを使用した。充填はカプセル嚥下後にスタッフが行う。

【検討1】ヒマシ油C使用前（以下Control群）と10ml（7カプセル）・15ml（10カプセル）を使用した群についてCCE検査完了時間と大腸の観察度（4段階評価）をretrospectiveに比較検討した。

【結果1】完遂率はControl群の26件では97%、ヒマシ油Cを使用した10件では100%であった。平均検査完了時間は、Control群は366分、10mlでは352分、15mlでは283分であった。大腸観察度はexcellent・goodが10mlでは80%、15mlでは67%であった。

【考察1】検査完了時間は使用前と10mlに差は認められないが15mlでは80分以上短縮となった。大腸観察度では10mlは15mlに比べ良好であった。更に、目的部位の滞在時間に差があるのか検討すると、大腸通過時間はControl群・10ml・15mlで164分・199分・195分となり目的部位滞在時間は10ml・15mlが長いことが分かった。

【検討2】以上の結果からヒマシ油量は10mlを選択した。更に観察度はヒマシ油Cの服用タイミングに依存すると考え、小腸到達後にまとめて服用していたヒマシ油C(7カプセル)を約5分毎に1カプセル服用する様変更した。

【結果2】タイミング変更からの6件では完遂率は100%であった。平均検査完了時間は、317分で大腸通過時間は201分であった。大腸観察度はexcellent・goodが95%であった。

【考察2】ヒマシ油Cを約5分毎に1カプセル服用したことによる平均検査完了時間は約30分短縮したが大腸通過時間に差は認められなかった。大腸観察度では5分毎に服用した方がまとめて服用した場合に比べ観察度が良好となる事から、ヒマシ油Cを一定間隔で服用する事は有用と考える。

【結語】今回ヒマシ油Cにより検査時間の軽減と、ヒマシ油の風味・気分不良を改善することが出来た。また、服用のタイミングを変更することで観察度も改善することが出来た。